

オ三十一軍の防備強化

一六

オ三十一軍司令官小畑中将は何時敵の来攻があつても直に應じ得る如く諸部隊を神速に展開し、先ず小笠原、マリアナ及びトラック（ポナペを含む以西、メレヨンを含む以東）の各地区、次でバラオ（ヤツブ）周辺及アングウルを含む一地区の防備基礎態勢を速急に確立する方針を以て部署を決定した。地上防備の主眼を航空基地群の確保に置き諸隊が逐次展開せば防備築城を擴充して先ず敵上陸部隊を水際に於て撃滅する態勢を整え、然る後逐次之を要塞化する。之が為諸隊到着後遅くも一箇月以内に野戦陣地を完成し、爾後なるべく速かに要部を永久築城化し概ね三箇月以内に特火點を骨幹とする堅固なる野戦陣地を完成することとした。

0398

各部隊は軍の方針に随つて築城施設に著手し軍司令官は自ら各集團の陣地を視察して直接築城の指導に任じ凡てが概ね計画通り順調なる進捗を見つゝあつた。

### 三 連合艦隊司令部の遭難

昭和十九年五月五日午後三時左の大本營発表があり古賀大將は元帥府に列せられた。

一 連合艦隊司令長官古賀峯一大將は本年三月前線に於て飛行機に搭乘全般作戦指導中殉職せり

二 後任には豊田副武大將親補せられ既に連合艦隊の指揮を執りつつあり

三 横須賀鎮守府司令長官後任には吉田善五大將親補せられたり